

◆ 一般的なヤシマットと浸食防止マットの違い

ボンテラ浸食防止マットの目的は、植生が回復するまでのあいだ土壌侵食を防止することです。すみやかな植生回復には浸食防止マットの構造が重要です。ここでは、混同されがちな一般的な”ヤシマット”と構造を比較することで、浸食防止マットの特徴を考えてみます。

一般的なヤシ繊維不織布



構造：ヤシ繊維をバインダー（接着剤）で固め、ニードルパンチ製法でマット形状にしたもの。  
 特徴：厚み、密度が均一な為、初期の侵食防止効果は高い。  
 植生回復：発芽を阻害する傾向



バインダーで固められている為、繊維は動かない。  
 繊維には吸水性が無く乾きやすい。

ボンテラ浸食防止マットの構造と特徴



構造：ヤシ繊維を両面ネットで挟むことでマット状にしている。  
 特徴：薄く適度な空隙があり、引張り強度も強く侵食防止効果が高い。  
 植生回復：中間のヤシ繊維が自由に移動できる為あらゆる植物が発芽できる。飛来種子の捕捉も良好。

内部のヤシ繊維は自由に移動できるため多様な植物の発芽を阻害しない。  
 ヤシマットよりも空隙が多く、飛来種子の活着も良好。

